

## CT検査での患者様への関りを見直して

放射線科                      沼崎眞貴子      高島意智子      田澤加代子      山本百合子

Key word                      造影剤遅延型副作用                      情報提供

### 【目的】

CT造影検査で使用される造影剤には、注入後すぐ発症する『即時型副作用』と、検査終了数時間してから起こる『遅延型副作用』の二種類あるが、『即時型』に比べ『遅延型』の認知は低い。我々は、患者様に『遅延型副作用』を理解して頂き、予防と早期発見の一助となるようにパンフレットを作成、活用し、その有効性を確認するためアンケート調査を行なった。その結果をここに報告する。

### 【方法】

『遅延型副作用』に関するパンフレット作成。平成18年6月14日～6月23日までに造影剤を使用してCT検査を受けた患者様にパンフレットを配布。『遅延型副作用』に対する認識やパンフレットの有効性などについてアンケート調査を実施した。

### 【結果】

今回調査した130名中『遅延型副作用』を「知っていた」と答えたのは31名23.8%で、「知らなかった」は94名72.3%であった。その中で過去にCT検査を受けたことがある患者数88名中『遅延型副作用』を知っていたのは21名である。また検査後気分が悪くなった経験者は7名いたが『遅延型副作用』を知っていたのは2名で、知らなかったのは4名、無回答1名だった。CT検査を受けたことがある患者様を1群、受けたことが無い患者様を2群として分類した場合、パンフレットで『遅延型副作用』を「理解できた」と回答したのは1群で87名98.8%、2群では41名97.6%、また「役に立った」と答えた患者様は1群で88名100%、2群で40名95.2%となった。

### 【考察】

今回作成したパンフレットは9割以上の患者様から「理解できた」「役に立った」という回答を頂き有効性が確認できた。調査の中で『遅延型副作用』が発症していた可能性があるにもかかわらず無自覚な患者様が半数以上だった。これは情報不足が原因に他ならない。現在CT検査を行う予定の患者様には造影剤に関する説明書が配布されているが、「字が細かく読むのが面倒」とか「専門用語がわからない」等の意見を聞くことがある。

外来や病棟でもCTに関して事前に説明はなされているが『遅延型副作用』に至るまでの説明を患者様一人ひとりに行うのは多忙な業務の中困難であろうし、それについては放射線科看護師が責務を負うものとする。しかしCT担当看護師一人で不特定多数の患者様に対応するのは容易ではない。このパンフレットが有効だった結果を踏まえ今後は色々な方法で患者様に情報を提供し、検査への理解と協力を仰ぎリスクの回避に努めたい。